

建設業関係者の皆様へ

公益財団法人 三重県建設技術センター  
理事長 野田 素延  
社団法人 三重県建設資材試験センター  
理事長 谷川 恭雄  
(公印省略)

## 平成24年度建設技術研修 専門分野(初・中級) 「橋梁点検技術」の開催について(通知)

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、技術センター並びに試験センターの業務について格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、技術センター並びに試験センターの公益事業の一環として、国・県・市町及び公社等職員並びに民間建設関係者等の技術の向上を目的とした技術研修会を下記のとおり開催しますので、業務ご多用の折とは存じますが、皆様のご参加をお願いいたします。

### 記

- 開催日時：平成24年10月26日(金) 10:00～16:00
- 集合場所： 国立大学法人名古屋大学工学部3号館3F 333講義室  
※詳細は別紙パンフレットを参照してください。  
最寄駅：名古屋市営地下鉄名城線「名古屋大学」下車 3番出入口徒歩3分
- 研修会場： 国立大学法人名古屋大学工学部3号館333講義室及びモデル橋梁「ニュー・ブリッジ」  
愛知県名古屋市千種区不老町
- 研修目的： 橋梁保全技術者の育成及び技術力向上のため、構造物の維持管理システム、点検方法、並びに国、県の橋梁点検要領に関する知識を会得するとともに、実際にモデル橋梁を用いて、橋梁点検に係る技術の習得を図る。
- 研修内容： 研修次第(別紙1)のとおり
- 講師： 国立大学法人名古屋大学大学院工学研究科 橋梁長寿命化推進室 職員  
中央コンサルタンツ(株) 構造部2課長 渡邊 淳
- 受講対象者： 国・県・市町職員、公社等職員及び民間建設関係者等(定員30名)
- 受講料： 一人につき7,000円(テキスト代含む)
- 申込締切日： 平成24年10月17日(水)
- 申込み及び振込み期限：  
申込みは、研修参加申込書(様式1)を平成24年10月17日(水)までに下記へFAXしてください。  
(公財)三重県建設技術センター 研修業務課宛て  
FAX 059-229-5621  
お振込みは、10月17日(水)までに下記の口座をお願いします。  
なお、締切日以降にキャンセルされると、受講料の返金は致しませんのでご了承ください。  
振込先：第三銀行津駅西支店 普通預金 No.700489  
公益財団法人 三重県建設技術センター

11. 共 催： (公財)三重県建設技術センター・(社)三重県建設資材試験センター
12. 後 援： 三重県県土整備部
13. そ の 他： (社)土木施工管理技士会連合会の継続教育(CPDS)の各認定プログラムとなります。(研修時間 5h)
- ・ この研修は、現地会場にて集合・解散とします。なお現地には、駐車場がございませんので、必ず公共交通機関をご利用ください。
  - ・ 実習を含みますので、ヘルメット等を準備のうえ、動きやすい服装にてご参加をお願いします。

問合わせ先：公益財団法人 三重県建設技術センター

研修業務課 波多野・笠井

TEL 059-229-5624

FAX 059-229-5621

ホームページ： <http://www.mie-kengi.or.jp>

# 研修会次第

## 平成24年度建設技術研修 専門分野（初・中級）

### 「橋梁点検技術」

開催日：平成24年10月26日（金）

共催：（社）三重県建設資材試験センター  
（公財）三重県建設技術センター

後援：三重県 県土整備部

場所：講義：名古屋大学工学部3号館3F333講義室  
実習：名古屋大学構内モデル橋梁 ニューブリッジ

※研修概要 橋梁に係る構造、道路橋の劣化、損傷等の概要並びに国土交通省、三重県の橋梁点検要領について、その基礎的な知識の修得を図ります。また、あわせてモデル橋梁を用い、実際に各種橋梁の点検機器などを用い、実習を通じて点検方法の要領を学びます。

—— 講 義 —— . . . . . 10:00 ~ 12:30  
オリエンテーション 10:00~10:10

1. 橋梁構造の概説、非破壊試験の原理、道路橋の劣化及び損傷事例 10:10~11:20

講 師： 国立大学法人名古屋大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻  
橋梁長寿命化推進室

2. 橋梁点検要領の解説 11:30~12:30

- (1) 三重県橋梁点検要領
- (2) 国土交通省点検要領

講 師： 中央コンサルタンツ(株) 構造部2課長 渡邊 淳

< 昼食休憩 12:30 ~ 13:30 >

—— 実 習 —— . . . . . 13:30 ~ 16:00

3. モデル橋梁による点検実習
- (1) 施設概要説明
  - (2) 鉄筋探査
  - (3) 疲労亀裂再現モデル桁観察
  - (4) 打音点検、赤外線カメラ
  - (5) テストハンマー強度試験
  - (6) 点検カメラ（橋梁下面目視点検カメラ）

実習指導： 国立大学法人名古屋大学 大学院工学研究科 社会基盤工学専攻  
橋梁長寿命化推進室

4. 質疑応答